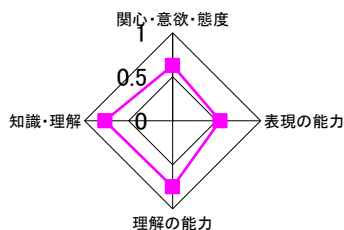


内容別・観点別の分析

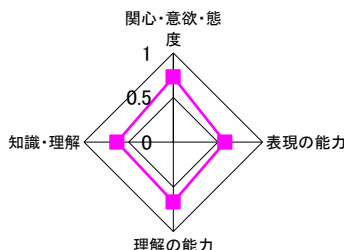
1年	観点別平均達成率
関心・意欲・態度	63%
表現の能力	54%
理解の能力	75%
知識・理解	77%

定期考査及び7月までの指導状況の分析



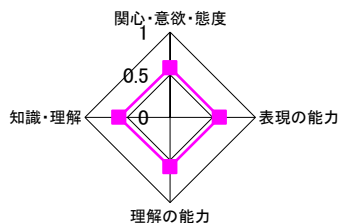
2年	観点別平均達成率
関心・意欲・態度	73%
表現の能力	58%
理解の能力	67%
知識・理解	63%

定期考査及び7月までの指導状況の分析



3年	観点別平均正答率
関心・意欲・態度	58%
表現の能力	58%
理解の能力	58%
知識・理解	60%

定期考査及び7月までの指導状況の分析



指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充学習等の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	4つの観点のうち、表現の能力の達成率が他の観点よりも下回っている。英語の学習が始まったばかりで、学習内容がまだそれほど難しくないので、発音ができても、英単語を正確に書けない生徒、最も基本的な英文のしくみが身につけていない生徒がいると考えられる。	単語テストや家庭学習の課題など、さらに計画的、継続的に英単語を書いて練習する機会を与える。また、未だ既習文型が少ないのであまりできなかった書いたり話したりの表現活動を、2学期以降はできるだけ多く行い、その題材や場面設定を、生徒が興味をわく、表現したくなるようなものにしていく。	1単位時間の中の帯活動として、話す表現力を高めるために、数分間生徒同士で英語でコミュニケーションをとれるような学習活動を組織し、毎時間繰り返し取り組ませる。発展的な活動としては、プリントなどの演習が早く終わってしまう生徒が、自分のことについて表現できるような+αの課題を追加するなどの工夫をする。
2年	4つの観点のうち、表現の能力の達成率が他と比べてやや低い。都の学力調査では、東京都の平均と比べてこの観点が一番大きく上回っていた。達成率の設定や定期考査の問題などを見直したい。一方で、定期テストの度数分布グラフと、都の学力調査の度数分布双方で、全体としてのテストの得点としての達成率は65~75%付近に一番のピークがあり概ね良好ではあるものの、正規分布にならずに、30~40%付近に二つ目のピークがある。	基礎基本が身につけておらず、苦手意識をもっている生徒が増えてきていると思われるので、単語テストなどの小テストを負担感なくできるようにしていく。そのために、小テストの試験範囲を細かく分けて多くの回数を行うようにする。さらに、家庭学習の定着がさらに図れるよう、わかりやすい課題を無理のないタイミングで出していく。また、英語を通して表現したり理解したりしたくなるような場面やテーマを設定し、関心・意欲をさらに高めていく。	補充的な指導として、表現活動の際には参考語句やモデル文を別途提示して表現活動がスムーズに行えるようにする。発展的な指導としては、ワークシートや課題を複数用意するなどして、モデル文の枠にとらわれない、さらに自由度のある表現ができるよう働きかける。また、習熟度を意識した少人数クラスでの指導のメリットを生かして、座席を意図的に決定し、ペアワークやグループワークが活発に行えたり、習熟度の早い生徒が多く発話し、その他の生徒がそれを模範として自分の目標を設定するなど、学び合い、教え合いができるよう配慮する。
3年	各観点の達成率は昨年度と変わらず約6割となっているが、定期考査の得点分布から見ると二極化が解消されてきている。これは2年次終盤に既習の英文法・重要表現の復習をした結果であると思われる。ただ、英語が得意な生徒でも特に会話テストやリスニングテストなどで英文を正確に聞き取るという作業に苦戦していた。	「自分で言えることは聞かえる」というように、リスニング力向上のためには、単語それぞれの正しい発音はもとより、語と語のつながり部分の発音も非常に大切になってくる。まずは音読練習を様々なパターンで練習させることと、読めた英文をくり返し聞く作業、さらにディクテーション活動を充実させていく。	補充的な指導としては、英検4級または同程度のリスニング問題を行い、答え合わせだけでなく、本文を何度も包装紙穴埋め問題を解かせる。発展的な指導としては、英検3級または同程度の問題を解かせ、さらに全文を書き取らせる作業を行う。